

平成 27 年度 東北ブロック事業報告

1. 活動テーマ

「保健師活動指針の推進」の見える化」

2. 目的

- ・「地域における保健師の保健活動に関する指針」を踏まえ、公衆衛生活動の原点に立った保健活動と人材育成を推進する。
- ・各支部の交流を深め、支部活動相互の活性化を図る。

3. 実施状況

回	開催日	場 所	内 容
1	8 月 1 日(土) 10:00～11:30	山形市 (山形市保健センター) 15 名	【支部長会議】 報告 ・ 拡大常任理事会、各支部活動について 協議 ・ 保健師活動指針の策定状況と支部活動の課題 ・ 人材育成マニュアル策定状況と市町村と保健所の連携 情報交換 ・ 会員拡大への取り組み
2	8 月 1 日(土) 13:00～16:30	山形市 (山形市保健センター) 69 名	【東北ブロック研修会】 活動報告 全国保健師長会常任理事 山野井 尚美 調査研究報告 「ソーシャルキャピタルの醸成に係る保健師の能力形成に関する研究」 調査研究班 西嶋 知子 講演 「地域における保健師の保健活動に関する指針を基にした保健活動の見える化と組織体制の整備」 日本看護協会健康政策部長 村中峯子 氏 活動実践報告 「全国に先駆けた青森県保健師活動指針の策定と実践」 青森県三八地域県民局地域保健総室課長 白戸江美子 グループワーク 「私たちの保健師活動指針を考える」 ～考えて、創造 ^{ひらめいて} して実践できる保健師を目指す～

4. 結果・課題

- ・支部長会議では、支部毎の会運営や保健活動指針・人材育成マニュアル策定等について活発な意見交換がなされた。人材育成および保健活動指針策定状況では県4（作成中3）・市町村3。策定にあたり、全体での検討と予算化し組織の理解を得るなどのプロセスが大切である。また、人材育成指針と一体的に保健活動指針を捉えることで策定意義が明確になる。
- ・グループワークでは、実践報告や情報交換を通じ指針策定に向けて活発な意見交換がなされた。

5. 支部活動の特徴

- ・青森県 保健活動指針を改定。予算化し5年毎に見直し、人材育成マニュアルも含み、新任期保健師育成として全市町村で活用。
- ・岩手県 支部会報を発行。大震災経験から県においても災害時の地区担当制の必要性を確認。先輩保健師の支援で若手保健師の自主勉強会が発足。

- ・宮城県 大震災後の新採保健師大幅増に伴い、県保健師人材育成ガイドラインを策定。市町村での作成もあり。
- ・秋田県 支部名称「保健師会」とし、再任用者にも拡大。支部機関紙を発行。県保健師団体連絡会を開催し団体連携を実施。
- ・福島県 大震災での保健師の体験や思いを県内保健師・県外支援保健師に募集し、「保健師活動体験記録」を作成（27年度完成）。
- ・山形県 「県保健師活動のあゆみ」を出版（H26）。支部ニュースレターを発行。支部として受動喫煙防止宣言書を提出し、県受動喫煙防止対策の推進に参画。

6. 委員・支部長

○理事	原田 真弓	山形県鶴岡市健康課
理事	斎藤 恵子	福島県郡山市保健所総務課
青森県	白戸 江美子	青森県三八地域県民局地域保健総室健康増進課
岩手県	花崎 洋子	岩手県大船渡保健所保健課
宮城県	岡本 咲子	宮城県仙台保健福祉事務所黒川支所
秋田県	鹿子沢 真由美	秋田県秋田市特定健診課
福島県	菅野 誓子	福島県伊達市高齢福祉課
山形県	長岡 静子	山形県村山保健所保健企画課

